

発明協会「平成20年度全国発明表彰受賞者」表彰式を都内ホテルで実施 バック自在のフルトレーラ牽引装置の発明で 新庄自動車株式の佐藤社長が名誉ある発明受賞

産業財産権の普及と啓蒙啓発活動などを行っている社団法人発明協会（豊田章一郎会長）は、「平成20年度全国発明表彰受賞者」の表彰式を6月17日、同協会の総裁を務められる常陸宮殿下、及び妃殿下臨場のもと、都内のホテルにおいて

実施した。

同協会は、明治37年の創立以来100年にわたり、一貫して発明の奨励・工業所有権制度の普及に努め、我が国科学技術の進歩・発展に貢献しており、様々な表彰や展覧会事業を通じ発明意欲の昂揚と科学技術の振興に

努めている。



常陸宮殿下、及び妃殿下臨場のもとに開催された「平成20年度全国発明表彰受賞者」表彰式

全国発明表彰は、大正8年の第1回帝国発明表彰開催にはじまり、文部科学省、経済産業省、特許庁、日本経済団体連合会、日本商工会議所、日本弁理士会、朝日新聞社の後援により、優れた発明を完成した人、実施化に尽力した人、発明の指導・奨励・育成に貢献した人を顕彰することで発明の奨励・育成を図り、我が国の科学技術向上と産業振興に寄与する目的を持っている。恩賜発明賞を最

高賞とする全国発明表彰は、大河内記念賞、市村賞と並び権威のある表彰として位置づけられている。

本年度は、発明協会47都道府県支部などから多数の推薦・応募があり、これらについて全国発明表彰選考委員会専門部会が審議選考を行い、さらに全国発明表彰選考委員会において慎重に審議した結果、今回の受賞者が決定された。

最高賞となる恩賜発明賞は、超高強度



新庄自動車株式の佐藤啓社長



トラックショーにも出展され高い評価を得た「HIRAKU式フルトレーラ装置」

と耐サワー性（耐硫化物応力割れ性）を兼ね備えた、石油・天然ガス生産用鋼管（由井管）に関する技術として、住友金属工業（株）総合技術研究所主任研究員、大村朋彦氏の「超高強度耐サワー低合金油井管の発明（特許第3864921号）」に贈られた。

また、今回の全国発明表彰の第1表彰区分では、新庄自動車（山形県新庄市）代表取締役、佐藤啓氏の「フルトレーラのバック自在の牽引装置の発明（特許第3743951号）」が選ばれ、名誉ある発明賞を受賞した。

佐藤社長が開発したフルトレーラのバック自在の牽引装置は「HIRAKU式フルトレーラ装置」の名称のもので、2001年の東京トラックショーに出展され来場者から高い評価を得たシステムでもある。具体的には、ドリー側には油圧操舵機構とロック装置を装着し、運転席からリモコンでドリーを操作することにより、フルトレーラのバック走行を容易に行える画期的な装置となる。さらに、油圧シリンダーがショックアブソーバーとして機能することで、高速走行時の安定性も確保し、ジャックナイフ現象も抑制する安全機能も有している。

輸送効率に優れるフルトレーラは、ヨーロッパや北米で広く普及している輸送手段である。日本でもトレーラメーカー各社が製造販売を行っているが、日本の道路事情や荷主側の受入体制、トラックの出力不足などさまざまな要因により大きく普及するまでには至っていない。特